

第 1 回福岡市子ども読書活動推進計画策定検討委員会 議事録

日時	令和 4 年 7 月 27 日(水) 10:00~11:30
場所	福岡市役所 教育委員会 会議室
出席者	別紙のとおり
議題	子ども読書活動推進計画(第4次)の策定について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

(1) 事務局挨拶

指導部長挨拶

事務局	※傍聴要領について説明(内容は省略) (委員からの質問なし) ※福岡市子ども読書活動推進計画策定検討委員会について説明 (内容は省略) (委員からの質問なし)
-----	---

(2) 各委員の紹介(省略)

2 委員長・副委員長の選出

3 協議

(1) 福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)の策定について

委員長	事務局から説明を
事務局	※ 計画の位置づけについて説明(省略) ※ 計画の沿革について説明(省略) ※ 計画期間について説明(省略) ※ 国の動向について説明(省略) ※ 策定スケジュールについて説明(省略)
委員長	これについて意見や質問はないか。 (委員からの質問なし)
委員長 事務局	「第3次計画における成果と課題」について説明を ※ 第3次計画における成果と課題について説明(省略)

委員長	これについて意見や質問はないか。
委員	目標(1)について、意識調査で市立図書館の利用上の問題点として、なぜ利用しないかの回答としては、「近くにない」と「探している本がない」という二つが高かった。子ども達が近くに図書館がないと思っているということは課題である。「探している本がない」というのは、実際本はあるが、うまく探せなくてない、探し方がわからない子どもが多い。学校と図書館が協力して、本の探し方を教えることが必要である。
委員長	司書に頼んで、学校にない本でも取り寄せてもらえるということもある。
委員	本の並び自体も周知されていない。
委員長	図書館のいろいろな機能をもう少し利用者である大人も含めて、子どもたちにも伝えていく必要がある。
委員	学校司書1人が複数の学校を担当しており、1日の勤務時間が短く、図書館を綺麗にすることに時間をとられてしまう。子どもたちに時間がとれないという悩みを聞く。学校司書の人数を増やしてもらいたい。
委員長	第6次学校図書館整備等5ヵ年計画の中で、学校司書の配置目標、小中学校等の概ね1.3校につき1名などという目標も示されている。
委員	数値目標にも関わるアンケート調査について、対象等を知りたい。
事務局	調査対象は、市立小学校2年、5年、市立中学校2年、県立、市立、私立高校2年の児童生徒、その児童生徒の保護者、また、3歳の未就学児の保護者、読書活動団体である。今回の調査時期は、令和3年10月、11月。次回の調査のときは、別の児童生徒となる。
委員	ブックスタートボランティアでは、4ヶ月健診の際に活動している。4ヶ月健診には、来られた全ての保護者に本を渡し、公共の図書館の案内等をしている。身近な地域の公民館に、文庫があることも紹介したが、今は個別で病院受診となり、私達ボランティアが関われない。その場で保護者に話せる機会がないことが残念である。

- 委員長 ブックスタートを通し、読書と家庭をつなぐ努力をなさっている。
- 委員 数年ぶりに、初心者向けの読み聞かせのボランティア講座があり、関わった。講座の参加者は、何か自分もやってみたいと意欲がある人達だった。そこで、小学校の朝の読み聞かせの人材が少なくて困っていると聞いた。読み聞かせに意欲のある人と小学校の読み聞かせの場をつなげる方法を検討してほしい。歳をとっても、歩いていける小学校に関わるということは、お互いにメリットがある。
- 委員長 活動したい、でも活動する場がないって思う方、人が足りないというところもある。つなぐ方法を考えていかなければならない。
- 委員 目標(4)メディアについて、今小学校では、タブレットをどう使うかに重点がある。以前読み聞かせをしていた時間は、タブレットを使った学習に代わっている。読書、タブレットを両輪に持っていくには、どうしたらよいかと考えて計画を策定してほしい。
- 委員長 タブレットの使い方をすぐに覚えてしまう子ども達にどうタブレットを使わせるかは重大な課題である。
- 委員 学校司書として、1校につき、1日4時間の勤務の中で、学級の利用時間として、4時間を取る場合もあれば、環境整備をする時間をあてる学校もある。図書館等整備計画が進んだとしても、どれぐらい時間は確保できるのか。各学校が、学校司書に割り当てられた時間をどのような仕事にさくかが大切である。学校司書としては、子ども達の読書支援を行い、課題を共有し、現場に持ち帰っていかしたい。特に本当に子どもと一緒に読書を楽しむこと、「共読」が大事だと感じている。先生方を巻き込み共読を推進していく。5年生でバリアフリーについて調べる学習があったが、先生によっては、すぐタブレットで検索していた。学校司書としては、調べるための本を薦めたが、図書の活用の仕方としても、ずっと変わらないものは本が適しており、新しく取り入れられたことについては、ネットを使って調べる方法がいい。学校の先生が、図書館についてどう考えているのかというのも子どもに影響がある。

委員長	図書の使用方など検討を。第4次の計画体系案について説明を。
事務局	※第4次の推進計画体系案について説明(省略)
委員長	意見、質問等あるか。
委員	<p>子ども自らが、主体的に読書に関わることを重視されている点はよい。これまでは、子どもに対して周りが全部お膳立てしているように感じた。子ども自身が何らか積極的に関わるような取組を考えたい。小学校では、子ども達は図書の時間が好きだが、実際に時間をとれなかったり、読む時間になっていなかったりする。例えば「一年間10冊読みたい」など一年間の目標設定をし、取り組んで、最後に自己評価する。そのような取組をできる範囲の中で入れていく。簡単に読書カードを作り、読んだ本の記録の裏に、お薦めする本のコーナーを作って、それらを図書室に掲示するという取組みもできると思う。クラスで5名ずつでも図書委員を活用して掲示し、1週間に1回掲示を交換することもできる。子ども自身が目標をもって取組み、なおかつそれを他者へ働きかけるそういう風なシステムがあるとよい。自分からできる、自分からするといった自主性を育てていくような取組を検討してほしい。例えば夏休みにパソコンで絵本を作ったり、本を自分でかいたりしたものをどこか発表する場というのを設けるのもよいと思う。</p>
委員長	子どもたちが自分で目標を設定し取り組むのはよいと思う。目標をもち取り組める子どもを、それまでに育てておかないといけないと感じた。
委員	<p>障がいのある子どもの読書を推進するためには、特別支援学校に学校司書等を配置してほしい。また、ICTと本を、どうやって授業で使えばいいかわからないと思っている先生がおり、福岡市として授業の型を示すことができれば、授業で本を使う先生も増えると思う。司書も関わり授業と一緒に作れたらいい。総合図書館は、電子図書館を開館した。児童に配布したタブレットを活用できると、時間がない、図書館が遠いという子も、図書館に興味を持ってくれるのではないかと。配布されているタブレットと福岡市の電子図書館をリンクさせるような取組みができたらいいい。</p>

- 委員 小学校図書館教育研究会では、昨年度、ブックトークなどを中心に研究し、そのシナリオをすべて、学年によって、具体的にどの本を載せる、この授業ではこれが活用できる等をまとめ、全学校で見られるよう、資料を配布している。司書の先生が4月当初図書館の使い方についても撮り、全クラスに発信をし、もう一度図書館の使い方を復習しようという使い方もできた。子どもたちが自ら進んで本を手取るために、どんな働きかけ方ができるか、本年度も続けて研究し、共有できるようにしたい。
- 委員長 学校司書がどういう活動を司書として行うのか、検討の余地がある。授業での本の使い方を先生方がもしかしたら知らないことがあるかもしれないが、学校には、司書教諭もおり、司書教諭の役割も期待される。
- 委員 第4次計画体系では、第3次と違って、家庭・地域、学校、図書館と分かれており、各々の立場から、子どもたちの読書を推進していくためのアプローチがはっきりみえる。図書館の役割として、読書センターの役割と学習情報センターの役割がある。読書センターとして、たくさんの本を読む機会になるよう、手立てをうつつと同時に、中学校としては、学習情報センターとして研究を進めていきたい。小学校で効果的なタブレットの活用を聞いたように、いろいろな学校が工夫をしながら、タブレットを使った学習を進めている。タブレットを使ったデジタルベースの情報は、やはりスピードで、本だとスピードダウンになる。しかし、本を読む中で、その文字を通して、その表現を通して、読者は立ちどまる。スピードがぐっと遅くなる。それだけ熟考もできるし、洞察力も深まるし、或いはいろいろな推理や推測ができる。タブレットと本、そういうものの使い分け、必要性を教員は十分理解している。タブレットについても、よりよく使うためにと皆必死に勉強しており、教員たち一人一人が一生懸命その併用と、その利点を生かして、これからの社会に生きる子どもたちのために、より効果的な教育に、模索している日々である。
- 委員長 障がい等がある子どものニーズに合った読書環境の充実という方向性では、日本語を母語としない子ども達、つまりいろいろな外国からやってきている子ども達についても、考えていく方がよいのではないかと感じた。これで本日の協議は終了する。

4 閉会
事務局

※閉会の挨拶、今後のスケジュールについて説明(省略)

終了